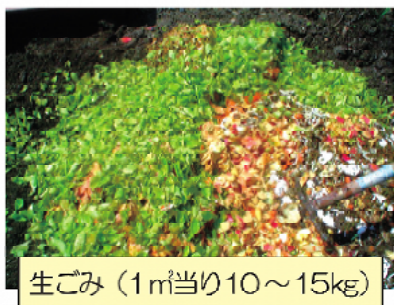
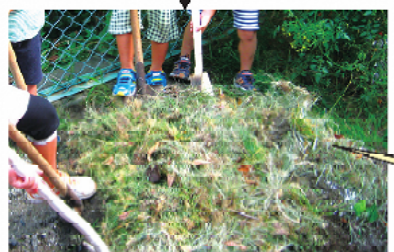


大地

生ごみを直接畑に混ぜて、短期間で土作りがで



生ごみ (1㎡当り10~15kg)



14日目まではシートをかぶせる

《用意するもの》

- ・ 米ぬか又はボカシ
- ・ カキ殻石灰 (有機石灰)
- ・ ブルーシート
- ・ シャベル

① ごみをためよう!

生ごみは小さくして、数日分、冷蔵庫でためるか、密閉容器を使ってためます。(生ごみを腐らせないようにためるのがポイントです。)

② 生ごみを土に戻そう!

畑を浅く (7~10cm程度) 耕し、1m四角に10~15kgの割合で生ごみを薄く広げ、生ごみと米ぬか、土を良く混ぜ合わせます。

その上に2~3日干した雑草を敷きつめ、広めにブルーシートで覆いましょう。(雨よけ)

草があれば、土と生ごみを混ぜた上に乾燥させた草をかぶせます。

冬場は透明のシートで覆う。(太陽の光をあびて、発酵を促します)

コンポスト

きます。野菜などの植付け前に行うと、効果的です。



3日目の様子



7日目の様子

3、7、14日目、よく混ぜる。(白カビが見られ、発熱。)



4週間後、生ごみの姿はなく、ホクホクの土ができてきました。

生ごみの中の種からかぼちゃが穫れることも!!

③ よく混ぜて、生ごみを分解しよう!

生ごみを入れた日から数えておよそ3日目、7日目、14日目に、空気を入れるようによく混ぜ、分解を促します。

特に、分解が進む3日目が重要で、かたまりがないようによくほぐしながら、丁寧に混ぜましょう。

14日目の時は、カキ殻石灰(有機石灰)を1㎡に200g~500g入れて耕します。



④ シートを取り、熟成させよう!

14日目以降は、シートは除去し、かわりに草で覆うと乾きすぎになりません。

生ごみを入れて1ヶ月以上たち、土にまったくくさい臭いがしなければ、そこに直接植え付けることができます。

(夏場は4週間、冬場は8週間くらいかかります)

